

129 都上りの歌

129:1 「彼らは私の若いころからひどく私を苦しめた。」さあ、イスラエルは言え。

129:2 「彼らは私の若いころからひどく私を苦しめた。彼らは私に勝てなかった。

129:3 耕す者は私の背に鋤をあて、長いあぜを作った。」

129:4 主は、正しくあり、悪者の綱を断ち切られた。

129:5 シオンを憎む者はみな、恥を受けて、退け。

129:6 彼らは伸びないうちに枯れる屋根の草のようになれ。

129:7 刈り取る者は、そんなものを、つかみはしない。たばねる者も、かかえはしない。

129:8 通りがかりの人も、「主の祝福があなたがたにあるように。主の名によってあなたがたを祝福します。」とは言わない。

イスラエルの苦難について、「イスラエルは言え。」と、その事実を明確に意識するようにと命じられています。それは「彼らは私に勝てなかった。」と勝利の宣言を際立たせるためです。

私たちも、過去の悲しい出来事がなかなか忘れられないということがありますが、それは時に勝利を際立たせるためであるのです。どんな過去があっても主にあって乗り越えられないことはないという事実を知りましょう。

神に選ばれた者、すなわち旧約においてはシオン（イスラエル）、新約においてはクリスチャンにも敵はいますが、それを憎む者はみな、「恥を受けて退け」られるのだという、神様の恵みを信じましょう。

ですから、主に頼り、主に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

